

令和6年度 全国学力・学習状況調査 調査結果の概要について



吹田市立高野台中学校

はじめに

平素は本校教育活動にご理解、ご協力を賜り有り難うございます。

さて、本年度4月18日に3年生を対象とした「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を今後、吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、数学、英語(話すこと調査も含む)に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図って参ります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にして頂きますようお願い致します。

令和6年(2024年)11月29日

1 教科に関する調査結果の分析

国語

(1) 概要

学習指導要領の領域すべてにおいて、全国値を上回る結果となりました。なかでも「話すこと・聞くこと」については、全国値よりも 9.1 ポイント上回りました。

(2) 学習指導要領の各領域等における結果

【言葉の特徴や使い方】

- ・文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・表現の技法について理解しているかどうかをみる。(全国値を下回る)

【情報の扱い方】

- ・意見の根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。(全国値を上回る)

【我が国の言語文化】

- ・行書の特徴を理解しているかどうかをみる。(全国値をやや上回る)

【話すこと・聞くこと】

- ・必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。(全国値を上回る)

【書くこと】

- ・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる。(全国値をやや上回る)

【読むこと】

- ・文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。(全国値をやや下回る)
- ・文章の全体と部分との関係に注意しながら、首長と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。(全国値を上回る)

(3) 今後の改善点について

【我が国の言語文化】

行書の特徴を、伝統的な文字文化とも関連させながら理解し、それぞれがどのような書き方なのかを具体的に捉えて、日常生活の場面と結び付けて、実際に書くことができるようにするとともに、短歌等の表現技法について、例を交えながら的確にとらえることができるよう指導していきます。

【話すこと・聞くこと】

話す際の工夫が様々あることを知り、自分の考えを分かりやすく伝えるには、どのような工夫が効果的なのかを理解するとともに、聞き手の立場に立って考え表現することができるよう交流の機会を増やしながら指導していきます。

【書くこと】

本や資料から文章や図表などを引用する必要がある言語活動の中で、引用の際には引用箇所をかぎかっこ(「 」)でくくること、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認するとともに、引用する目的や効果について考えるように指導することが大切で、それらを踏まえて、意見文などを書く際に、自分の考えを支える根拠として資料を適切に引用することなどができるように指導していきます。

【読むこと】

言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、第1学年では場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などを、第2学年では登場人物の設定の仕方などを、第3学年では物語の展開の仕方などを捉えて、内容を理解することができるように、系統的に既習の内容と結び付けて指導していきます。また、継続的な読書指導によって、書物への親しむ環境を作ります。

数学

(1) 概要

学習指導要領の領域すべてにおいて、全国値を上回る結果となりました。なかでも「数と式」については、全国値よりも 15.7 ポイント上回りました。

(2) 学習指導要領の各領域等における結果

【数と式】

- ・連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。(全国値を上回る)

・統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。(全国値を上回る)

【図形】

- ・回転移動について理解しているかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出すことができるかどうかをみる。(全国値を上回る)

【関数】

- ・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。(全国値をやや上回る)
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる。(全国値を上回る)

【データの活用】

- ・簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。(全国値を上回る)
- ・複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる。(全国値を上回る)

(3) 今後の改善点について

【数と式】

統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるようにするために、すでに成り立つことが示された事柄を基に、前提を変えても成り立つ場合を考え、話し合う活動を充実させていきます。また、規則を見だすために、文字を使った式で表す前に、具体的な数字で考え予想する活動を取り入れます。

【図形】

結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を取り入れることで、数学的に説明できるよう指導していきます。

【関数】

様々な問題について、数学を活用して解決できるようにするために、表、式、グラフの中で適切なものを選んで用い、それらを関連付けながら問題解決する活動を取り入れます。また、問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実させていきます。

【データの活用】

身のまわりの事象を取り上げ、複数の集団のデータの分布を比較・検討する場面を設定し、考察する活動を充実させていきます。その際、データ活用に必要な用語と用語の意味をしっかりと確認して数学的な表現ができるように指導していきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

～質問紙調査結果からの分析～ 数字は、各質問に対する肯定的な回答の割合

【自分自身のこと】

- ・自分には、よいところがあると思いますか 全国値とほぼ同じ。
- ・将来の夢や目標を持っていますか 全国値を上回る。
- ・人が困っているときは、進んで助けていますか 全国値を上回る。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか 全国値を下回る。

○教育活動全体において個々の子供理解に努め、子供同士が関わり、協力し合う取組を増やし、それぞれの良さが発揮できる場面を意識的に作り、自己有用感や自己肯定感を育んでいきます。

○最後までやり遂げる経験を積み重ねることを通して達成感が生まれてくることから、特別活動や総合的な学習の時間等における体験活動や教科指導等を通じて、やり遂げる経験を積み重ねることのできる取組を実施していきます。

○キャリア教育の小中一貫カリキュラムを活用し、系統的、継続的な取組を推進することで、将来に対する目的意識や展望を育んでいきます。

【家庭生活・家庭学習】

- ・朝食を毎日食べていますか 全国値をやや上回る。
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか 全国値を上回る。
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか 全国値を上回る。
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む) 全国値をやや上回る。
- ・学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(2時間以上する) 全国値を上回る。
- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(3時間以上する) 全国値を上回る。
- ・新聞を読んでいますか 全国値を下回る。

○睡眠時間の確保や、ゆとりのある生活習慣を身に着けるためにも、規則正しい生活のリズムが大切です。

○テレビゲームや携帯電話・スマートフォン等が学習の妨げにならないよう使用時間や情報モラル等を踏まえた使い方について、家庭で決まり事を作り、守るよう指導をお願いします。さらに、メールやライン等による誹謗中傷のいじめ事案が課題となり、その使用についてのルールやマナーを守らせるための指導を、今以上に行うことが必要であると考えます。

○家庭学習についても、家庭生活の時間の使い方を話し合う中で、最終的には子供自身が取り組み方法について主体的に考え、決めることが必要です。家庭学習が定着できている生徒と、できていない生徒の二極化がみられます。生徒が自ら課題を見つけ、取り組む習慣を身に付けることが必要であると考えます。

【学校生活・授業・規範意識】

- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか 全国値をやや下回る。
- ・学校に行くのは楽しいと思いますか 全国値を上回る。
- ・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか 全国値をやや上回る。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか 全国値を上回る。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか 全国値を上回る。
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか 全国値を上回る。

○いじめ等への未然防止の取組として、道徳教育や人権教育等、教育活動全般を通じて豊かな心を育む取組を推進していきます。

○総合的な学習の時間では、施行錯誤しながら新しい未知の課題に粘り強く対処し、解決しようとする姿勢を育むために、身近な社会の人々、自然に直接関わる学習活動に取り組みます。

○特別活動(学級活動、生徒会活動、学校行事)では、生徒の自治的な能力や自主的な態度を育てるとともに、学力向上の基盤に必要な人間関係を築き、いじめや不登校などの問題に対する要望的な役割を果たすため、学校やクラスの実態に合わせた取組を実施していきます。

○授業で取組んでいるペア学習やグループ学習、また班での話し合い活動や教え合い活動が充実してきたことで、生徒に自分の考えを伝達する力が育ってきています。生徒が一面的な考え方にとどまらず多様な考え方に触れ、さらに考えを深めていけるよう、授業方法をより一層工夫し、「主体的・対話的で深い学び」となるよう努めるとともに、生徒が意欲を高める授業づくりをさらに進め、「学びに向かう力」を一層育んでいけるよう取り組みます。

おわりに

今回の調査をもとに、子供たちの学力を把握し、確かな学力を育むために、放課後学習等の個別指導、ICTを活用したわかる授業づくりや少人数授業など、個に応じた取組の充実を図って参りたいと考えています。また、自ら学習に向かう姿勢等、学習意欲についての課題改善に向け、学校においては、授業規律・生活規律を確立した上で、学ぶ意欲を喚起する授業づくりやわかる授業の創造、小学校との連携のもと系統的な小中一貫教育の推進など、引き続き多様な指導法の工夫改善に取り組むとともに、ご家庭においても、基本的な生活習慣を確立し、さまざまな生活体験や日常的な会話を通じて、自主的に学習に向かう姿勢を身に付けさせる必要があります。さらに、学習内容の定着には、学校での反復学習のみならず、家庭学習の担うところが大きく、学校と家庭が連携し、自学自習力をつける取組を進めるために、今後もご協力いただきますようお願い致します。